

美楽舎

会報 第237号 (平成23年7月発行)

東京都中央区銀座1-5-1 第三太陽ビル6F K's Gallery 内
Tel/Fax 03-5159-0809 メール kgallery@eagle.ocn.ne.jp
ブログ <http://bigakusya.blog.so-net.ne.jp/>

第261回(6月)例会報告

講演会「日本現代美術マーケットの潮流：アートフェアを通して」

株式会社レントゲンヴェルケ代表取締役 池内務 氏

2011年6月19日(日)

参加者 : 石堂、岩井、岡本、片岡、鈴木
丹、榑崎、藤井、増田、澤登

ゲスト : 13名

<澤登丈夫(幹事)>

1. 池内さんの履歴

■家とギャラリーの初め

池内家は祖父が金沢で茶道具屋を営んでいた。これが池内と美術の繋がりであります。何故美術商を始めたのかハッキリ判っていないが、明治の頃の話です。始め祖父は台湾に写真屋の丁稚をして渡った。帰って何故か茶道具屋を始めました。その後、金沢に小山神社という不思議な形をした建物の神社があるのですが、その脇に小さな店を開けました。

その長男であります私の父が赤坂水戸幸(西麻布)に修行に入った。通常5年勤めて実家に戻り

店を継ぐのだが、父はそのまま東京に5年間社員として働き、1966年に虎ノ門(今の神谷町)に古美術池内の名で店を開けた。で、その長男(努)もきっちり茶道具商の後を次ぐべき処、一応丁稚をやったのだが、自分は高校生の時、演劇にはまりまして、大学も演劇を専攻し、ふらふらした生活をしていたが、水戸忠交易(工芸:紀尾井町)にバブルの89年ころに勤めた。何でもかんでもお金だらけの時代だった。主人の林さんがそうであると言うことではなく、あまりに廻りの状況がそうだった。普通丁稚が首になって居なくなるのだが、私は自分で居なくなった、飛び出してしまった。1年も居なかった。

家族とも連絡を取らず、自分の劇団連中としばらく居ました。それでもかぎつけられて、ある日突然父親から、連絡があった。丁度商法の大改正があつて、個人商店から株式会社にする。その当時資本金が50

